

パブリックコメントの結果について

募集期間：令和3年7月20日～令和3年8月18日

応募件数：1件

1名の方から延べ2件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	検討	反映困難	その他	合計
0件	0件	0件	0件	2件	2件

【文章修正等】・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

【記述済み】・・・既に記述済みのもの。

【検討】・・・計画の実施段階で検討または対応すべきもの。

【反映困難】・・・反映が困難なもの。

【その他】・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

提出された意見等の詳細及び回答

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
1			<p>計画案 p. 19 では、「肥満傾向にある子どもの割合」が表示されていた。子どもの食習慣は、家庭で食事を提供する人の食習慣や生活習慣の影響を大きく受けるため、肥満傾向にある子どもの両親の食習慣や生活習慣（特に、一日の時間配分やその内容）と子どもの食習慣や生活習慣（一日の時間配分やその内容）の関連を明らかにする調査を行うことを提案する。</p>	<p><b>【その他】</b> ご意見については、関係団体等とも調整し、今後計画を推進するうえで参考にさせていただきます。</p>
2	持参	<p>市内に住所がある人 市内の学校に在学する人</p>	<p>計画案 P. 11 第3章2（1）規則正しく健全な食習慣の育成では「命を大切に作る心」が挙げられていた。私はこれに賛成する。食の大切さを学ぶには、食事が作られるプロセスを一から体験したり、自然に近く、より加工されていない食材を購入し自ら調理したりすることが必要だと考える。また、ファストフードや加工食品を手の届く所に置かないことも一つの手だと考える。オランダのユトレヒト大学とヴァーヘニンゲン大学の心理学・健康の分野の3人の教授によって行われた研究からは、不健康なお菓子との距離を遠ざけ、届きにくくすることで、その不健康なお菓子を摂取する量と確率が減ることが証明された。実際に、家庭や職場、個人など様々なグループで、上記の研究と同じようなことを実施し、習慣化させたり推進させることを提案する。</p>	<p><b>【その他】</b> ご意見については、今後計画を推進するうえで参考にさせていただきます。</p>

※意見等については頂いたご意見等をそのまま記載しています。